

大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 成果報告

大学コンソーシアムとちぎ学生活動支援事業として、宇都宮共和大学「2年三浦ゼミ」および大学公認サークル「地域お助け隊」の学生を中心に、「地域資源×食×交流による地域活性化－移動式大谷石ピザ窯による居場所づくり－」を実施しました。

ピザ窯の製作にあたっては、石蔵として使用されていた大谷石の古材を再利用しました。当初は新規石材の使用も考えましたが、試行錯誤の結果、古材のみを組み合わせる構造を採用し、コストの削減を図りつつ、古材ならではの風合いを活かしたピザ窯を完成させました。接着加工の不要な設計としたことで解体・再組立てが可能となり、移動式ピザ窯としての活用を実現させました。製作過程では、市内事業者へのヒアリングや見学も行い、実践的な知見を取り入れました。

2025年10月に実施された大学祭「すみれ祭」前夜祭においてピザ窯のお披露目を行い、学内の関係者を中心に約100名にピザを提供しました。ピザ窯を囲む中で、大谷石や古材についての話題が自然に生まれ、地域資源への関心を高める機会となりました。

同年11月には築瀬小学校で開催された「築瀬地区文化祭」に出店しました。本活動では、築瀬まちづくり推進協議会をはじめとする複数団体と連携し、約半年にわたって準備を進めました。当日は大谷石ピザ窯で焼いたピザトーストを100食以上提供し、子どもから高齢者まで幅広い世代が集う場となりました。食を媒介とすることで参加のハードルが下がり、学生と地域住民の間には自然な会話や交流が生まれ、両者が対等に関わる関係づくりにもつながりました。なお、売上の一部は宇都宮市社会福祉協議会へ寄付しました。

これらの取り組みにより、ピザ窯を中心とした交流の場が創出され、とりわけ子ども世代への関心喚起にもつながりました。さらに、複数団体との連携を通じて地域内のネットワークが形成され、継続的な活動に向けた基盤を得ることができました。本事業を含む内容は、「築瀬あったかりンク事業～地域をひらく、心をつなぐほっこり居場所ネットワーク構想～」として宇都宮市主催の「大学生によるまちづくり提案発表会2025」において発表し、優秀賞（第2位）を受賞するなど学外から高評価を得ました。

課題としては、継続的な実施体制の構築と、学生の卒業による担い手の変化への対応が求められます。また、地域意識の変化などの効果については、アンケートやヒアリングによる検証が必要です。

参加学生にとっては、地域と関わる実践的な学びの機会となりました。今後は、これを継続的な取り組みへと発展させていくことが期待されます。

大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 成果報告

2024年に発足した「宇都宮市創造都市研究センター 魅力都市研」は、宇都宮共和大学・作新学院大学・帝京大学宇都宮キャンパス・文星芸術大学の学生による研究会であり、約2年間にわたり地域連携活動に取り組んできました。本学からは4名の学生が参加し、研究会における「まちづくり班」の代表はシティライフ学部3年の廣田美姫さんが務めました。

2025年度には、「大学コンソーシアムとちぎ」の学生活動支援事業として、「オリオンパーク ストリート」プロジェクトを実施しました（図1を参照）。これは、宇都宮市中心市街地のオリオン通り周辺を対象に、通り空間を一時的に遊び場として活用し、その魅力や滞在性の向上を探る学生主導の実践活動です。本事業には、魅力都市研に所属する学生12名が中心となって参画し、企画立案から備品・広報物の準備、当日運営までを分担しながら進めました。2025年11月13日・14日の2日間にわたり、オリオンスクエアで「光」を活用したクイズゲーム、スーパーボールすくい、ボーリング等のイベントを実施した結果、延べ120名以上の来場があり、子ども連れの家族を中心に、学生や大人も含めた多世代が同じ場で遊び、自然に交流する機会を生み出すことができました。

こうした実践と簡易的なアンケート・インタビュー調査を通じて、オリオン通り周辺を「遊び」を軸に再編するための基礎的知見を得ることができ、地域に対する提案につながる成果を挙げることができました。さらに、本活動をもとに整理した提案は、宇都宮市主催の「大学生によるまちづくり提案」において特別賞を受賞したほか、本学すみれ祭の「ゼミ発表会」でも第1位を受賞しており、地域実践から提案・発表へと展開した点でも大きな成果を挙げました。

本事業は、中心市街地に新たな滞留と交流の機会を生み出しただけでなく、参加学生にとっても、大学の枠を超えた協働や、企画から実践・発表に至るまでの一連のまちづくり活動を経験する貴重な学びの機会となりました。今後は、単発のイベントとして終えるのではなく、地域関係者との連携をさらに深めながら、継続的かつ発展的な活動へとつなげていくことが期待されます。



図1 本事業のフライヤー